

[発行]

JBS日本福祉放送 (社会福祉法人 視覚障害者文化振興協会)

〒534-0026 大阪市都島区網島町4-12

TEL 06-4801-7400 FAX 06-4801-7401

URL <http://www.jbs.or.jp>

発行責任者 川越利信

## 東京五輪招致の実現に向けて(4) パラリンピックを日本で

### ブラインドセーリングによる 世界初の太平洋横断に挑戦

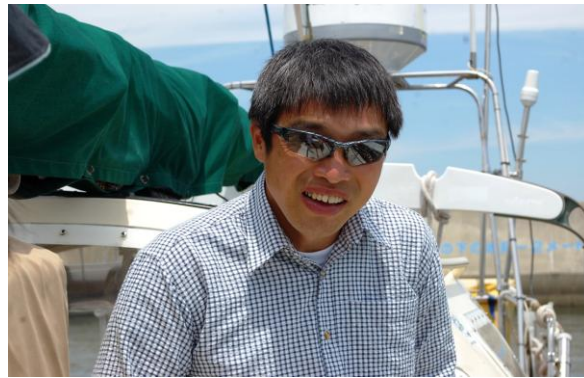
ブラインドセーラー 岩本光弘さん

絶望の淵から前向きな人生へ

目が見えなくてもヨットで太平洋を横断したい。この夏そんな夢に世界で初めて挑戦するのが、ブラインドセーラーの岩本光弘さんだ。ニュースキヤスターの辛坊治郎さんとともに、ダブルハンド(乗員2人)によるヨットの太平洋横断に挑む。

先天性の弱視で高校生の時に全盲になった岩本さん。「絶望に苦しみ号泣する日々でしたが、ある夏の夜、夢の中でポジティブに生きるとメッセージを受け、生き方を変えたのです」。

旺盛な好奇心で世界に目を向けるようになり、米国留学も体験。現在は米サンディエゴに在住し、独自に開発した「指針術」の治療院を営む。ヨットに出会ったのは2001年。その5年後には日本代表チームの一員として世界大会にも出場した。



出港間近のエオラス号で  
太平洋横断の抱負を語る岩本さん

終わらない夢に向かつて

今回岩本さんが乗り込むのは、タレント・間寛平さんが「アースマラソン」で使った「エオラス号」だ。6月8日に大阪を出港。福島県小名浜港を經由し、55日間をかけてサンディエゴ港までの約9千キロを帆走する。レーダーや通信衛星装置は、船舶用電子機器メーカーの古野電気が提供。新たに開発された視覚障害者向けソフトウェアによ

って、必要な情報が音声化されながら航海できる。大波や強風など数々の危険との戦いになるが、「極限状態を経て、自分はどう変わるのかが楽しみです」。

福島を經由するのは、東日本大震災を風化させず、被災地を元気づけたいとの思いから。そして太平洋横断成功後は、生きる気力を失った子供たちにヨットの体験学習を行うのが夢という。「一緒にセーリングを楽しみながら、ポジティブに生きる喜びを伝えたい」と熱い思いを語ってくれた。

#### 岩本光弘さんプロフィール

1966年 熊本県天草市生まれ

16歳で全盲となる。熊本県立盲学校で鍼灸を学び、米サンフランシスコ州立大学留学を経て、筑波大学理療科教員養成施設を卒業。26歳で筑波大学付属盲学校鍼灸手技療法科講師となる。日本で知り合った米国人の妻と29歳で結婚。39歳で米サンディエゴに移住し、「指針術(手で行う鍼治療)」の治療院を開業。2006年 IFDS ブラインドセーリング世界大会など数々のヨットレースに出場。

◆ブラインドセーリング ホームページ  
<http://www.b-sailing.com/>

◆岩本光弘さん支援プロジェクトホームページ  
<http://www.seewhatisea.com/>

ちょっとぜいたくなJBSの楽しみ方

音楽&JBSをUSENで!

USENは24時間のノンストップ放送で、500チャンネル勢揃い。  
快適な音楽生活をお約束します♪

月額使用料6,000円のところ→3,000円(税別)

お問い合わせ・お申込みはJBSまで。

電話 06-4801-7400 FAX 06-4801-7401 URL <http://www.jbs.or.jp>

# USEN

USEN広告

# ボランティア活動の支援情報

## 聴き易く、分り易い音訳

5月29日、JBSの音訳研究会が、講師に恵美三紀子先生をお迎えし、27名の音訳ボランティアが参加してドーンセンターで行われた。これは、今年3回行う研修会のうち、第1回目だった。今回は、「視覚障害者が求める読み—必要な基礎知識、基礎技術」をテーマに行われた。あつと言う間に：

恵美先生は、音訳の考え方や具体的にどう読むのかなど、基本理念と技術を最初から苦労しながら育て上げ、実践してこられた方だ。研修の中で得意即妙に答え、適切な助言ができる、そんな講師ぶりを拝見し、さすがだなと思う他はなく、あつと言う間の3時間半だった。



聴きやすく、わかりやすい音訳を目指す研修会の様子

## 図、表などの処理

今回は、7月24日(水)13時から16時45分まで。ドーンセンターで「読み方、図表の処理」をテーマに行われる。ご連絡は、制作係まで。



講師の恵美三紀子さん

## 減災・防災

### 東日本大震災

### 音訳グループを支援

6月8日から10日まで、岩手県大船渡市内で活動する音訳ボランティア・グループを支援するために音訳講習会を実施する目的で出かけます。  
今回の支援活動は、公益財団法人大阪コミュニティ財団福井敏ガン・医療基金の助成により実施するものです。

## 障害者と就労

### 障害者を雇用する

### 企業を支援

### Hepsの試み

障害者の雇用支援・自立支援・生活支援を謳うNPO法人Hepsコンソーシアムが5月1日、大阪市内で障害者の雇用を考えている企業をサポートする事業を開始した。

障害者を雇用したいがどうしたらいいか分からない、職場の環境や体制が整わないなど、障害者雇用の意思はあるのだが実際には雇用できていない企業をサポートし、障害者の就労を促進するのがHepsのねらい。  
障害者と企業の  
両方をサポート

Hepsの理事長合田朋弘氏は、前職の人材サービス会社で働いていた時、障害者雇用に関して次の3点が課題であることに気付いた。  
知らない—雇用したいと思っても障害者とのネットワークがない。  
分からない—どんな仕事ができるのか能力が分からない。



Hepsの看板が目目を引くビルの前に立つ合田朋弘理事長

出来ない—職場の環境整備が物理的費用的に出来ない。

Hepsはこれらの課題を解決して、各分野の専門家と組んで、メンタル・ヘルスケアなどを行い、障害者と雇用企業の両方をサポートする。

連絡先

NPO法人Hepsコンソーシアム  
TEL 06-6267-0777



編集室 言いわけが出来ないほど発行が遅れてしまいました。梅雨。せめて晴れやかな気持ちで、乗り切りましょう。  
企画・編集 川越利信/取材・執筆 二宮真理、川越利信 / レイアウト・印刷 佐藤庸子